

商業科教育法B		講義	非常勤講師 櫻井 清人	
科目カテゴリー	教職科目		科目ナンバリング	25200302

1. 授業のねらい・概要

高等学校の商業科教育免許状を取得することを希望する学生に対して授業を行う。

『高等学校学習指導要領（現行及び平成30年告示）解説 商業編』に基づき各科目の年間指導計画、学習指導案の作成、そして模擬授業をとおして商業科教員としての指導技術を学ぶ。また、我が国における商業教育の課題を取り上げ、今後を展望する。

2. 授業の進め方

基本的には、講義形式を中心とするが、調査・研究課題の報告や模擬授業なども取り入れていく。

3. 授業計画

1. 教育課程編成と年間指導計画の作成	9. 学習指導案の作成 (3) ビジネス情報分野「情報処理」
2. 学習指導の諸形態とその方法	10. 模擬授業と授業研究 (3) ビジネス情報分野「情報処理」
3. 評価の観点と評価規準	11. 学習指導案の作成 (4) マーケティング分野「マーケティング」
4. 学習指導案の作成	12. 模擬授業と授業研究 (4) マーケティング分野「マーケティング」
5. 学習指導案の作成 (1) 基礎的科目「ビジネス基礎」	13. 総合的科目の授業研究
6. 模擬授業と授業研究 (1) 基礎的科目「ビジネス基礎」	14. 商業科教員としての職務と資質・能力の向上
7. 学習指導案の作成 (2) 会計分野「簿記」	15. 魅力ある商業教育
8. 模擬授業と授業研究 (2) 会計分野「簿記」	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに予習としてテキストの該当ページを読み、授業後には指示された調査・研究課題をレポートにまとめ提出する。また、模擬授業に際しては該当科目の学習指導案を事前に指導を受け作成する。この準備学習には2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施や調査・研究課題をレポートにまとめ提出する際、採点した試験答案やレポートについては採点や評価をして返却する。また、模擬授業に際しては授業後、学生による相互評価や指導教員から指導助言を行う。

6. 授業における学修の到達目標

- (1) 生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
- (2) 教科「商業」の学習評価の考え方を理解している。
- (3) 教科「商業」の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
- (4) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
- (5) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
- (6) 教科「商業」における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
- (7) 商業教育を指導する教員としてふさわしい資質・能力を身に付けている。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（50%）、課題・レポート（20%）、模擬授業（20%）、授業への取り組み姿勢（10%）

8. テキスト・参考文献

『商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する』日本商業教育学会編著 実教出版 令和元年10月
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 商業編』文部科学省 実教出版 平成31年3月
高校で使用中の教科書及び各検定試験問題

9. 受講上の留意事項

毎回内容を積み重ねていく講義なので、欠席をしないようにすること。また、「商業科教育法A」の単位修得者のみが「商業科教育法B」を履修することができる。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、商業高等学校における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。